

**対ベリーズ草の根・人間の安全保障無償資金協力
「ビショップ・マーティン高等学校校舎建設計画」
引渡式**

2019年2月7日、オレンジ・ウォーク県において、対ベリーズ草の根・人間の安全保障無償資金協力「ビショップ・マーティン高等学校校舎建設計画」の引渡式が開催されました。

窪田在ベリーズ日本大使館臨時代理大使は、挨拶の中で、地域の人々に直接裨益することを目指す日本の草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じて、同校の新校舎建設が実現したことの喜びを述べるとともに、本件はベリーズの将来を担う若者たちへの投資であり、教育分野での今両国の一層の連携を強調しました。

窪田臨時代理大使に対し、同校から日本政府の本件計画への貢献を称えた記念盾が贈呈されました。

オレンジ・ウォーク町のビショップ・マーティン高等学校は、人口増に伴う生徒数の増加や評価の高い教育カリキュラムによる入学希望者の増加により、生徒数の過密状態と教室不足に直面していました。

このような不教育環境を改善するため、草の根・人間の安全保障無償資金協力で供与された103,624米ドルで、同校は3教室（音楽室、図書室、教室）を有する新校舎を建設することができました。この新校舎によって、同校の生徒がより良い教育環境で教育を受けられるようになることができるようになることが期待されています。

同引渡式には、ルイス・プーク校長、イアン・カール理事長、ホスエ・ブリセーニョ元理事長他学校関係者、報道関係者、JICA関係者など約60名が出席しました。

被供与団体のルイス・プーク校長は、本件供与きっかけとなったJICAボランティア大野元隊長、草の根委嘱員など日本関係者に対する深い感謝の意を述べました。また、同校の設立から関わってきたハイメ・ブリセーニョ元理事長は、日本政府と日本国民の皆様はビショップ・マーティン高校のファミリーの一員であると、暖かい歓迎の気持ちを表しました。



窪田臨時代理大使によるスピーチ



ルイス・プーク校長は日本政府と人々に対する謝意を述べました。



プーク校長から窪田臨時代理大使への記念盾の贈呈。



除幕する窪田臨時代理大使、プーク校長、ハイメ・ブリセーニョ元理事長。



左から：窪田臨時代理大使、プーク校長、ブリセーニョ元理事長



草の根資金によって建設された新校舎